

ふれあい

No.189

ふれあいネットワーク



新年のごあいさつ

新十津川町社会福祉協議会 会長 佐川 純

新年あけましておめでとうございます。平素より、社会福祉協議会の活動と運営に格別のご支援とご協力をいただき、心から厚くお礼申し上げます。

昨年は、道内において、胆振地方中東部を震源地とする最大震度7の大規模な地震が発生し、厚真町、安平町、むかわ町の3町は甚大な被害に見舞われました。社会福祉協議会では、震災後の9月の半ばから末にかけて、むかわ町へ職員3名を延べ10日間派遣し、災害ボランティアセンターの任務にあたりました。

犠牲となられた方々に心からご冥福をお祈りするとともに、被災地の一日も早い復旧復興をご祈念致します。

さて、とどまることを知らずに進行し続ける高齢化、新十津川町も例外ではなく、ここ数年で高齢化率が40%に迫る勢いで上昇し、町民の5人に2人が65歳以上という深刻な状況が切迫しております。その様な中でも私たちは激化する時代変遷を重く受け止め、今日的福祉課題に取り組むための一策として、子どもから高齢者、障がい者に至るまで、誰もが気軽に

に寄り合えるふれあいと社交の場として、「ふれあい横丁」を昨年6月1日にオープンしました。近年、独居高齢者の孤独死、高齢者夫婦や老老介護親子の孤立死など、たびたび不幸な事件を耳にします。それは親族関係や社会的交流が希薄になり、人との交わりが殆どなくなってしまいう孤立化が原因だと言われています。それぞれの地域に住むみなさんが日頃から互いにふれあい、かわり合う関係を築いておいていただくためにも、ふれあい横丁を是非有効に活用していただきたいと思います。

今後も、時代のニーズにこたえ、誰もが安心して暮らせる福祉のまちづくりをモットーに、社会福祉の充実に努めてまいります。いりたいと思いますので、町民のみならずの1層のご支援とご協力をお願い申し上げます。

結びに、この年が平穏無事であることをお願い、併せて、町民のみならずにとりまして、最良の年となりますよう、心からご祈念し、年頭のご挨拶と致します。

平成三十一年元旦

北海道コカ・コーラ ボトリングより クリスマスプレゼント

12月5日、北海道コカ・コーラボトリング株式会社から町内の福祉施設及び事業所に666本(27ケース)が寄贈されました。同社では、昭和43年から地域に対する社会貢献の一環として「炭酸飲料」「果汁飲料」「スポーツ飲料」「お茶飲料」などを道内の福祉施設へ毎年寄贈しています。福祉施設の子ども達や高齢者への一足早いクリスマスプレゼントとして、この取り組みを続けており、51回目を迎えた今年、寄贈数の累計は、325万7千551本となりました(昨年までの累計309万7千551本)



プレゼントを寄贈している様子

第13回 赤い羽根共同募金 チャリティーカラオケ

12月9日、ゆめりあホールで第13回赤い羽根共同募金チャリティーカラオケが開催されました。

当日は20組の出演者によるカラオケと一輪車によるアトラクションが披露されました。観客から歓声が沸いたり、熱い声援が飛び交う場面もあり、会場は大いに盛り上がりました。

なお、チャリティーカラオケの収益は必要経費を除き、全て赤い羽根共同募金とさせていただきます。

赤い羽根共同募金チャリティーカラオケ収入

入場券販売 (前売)	184,000円
入場券販売 (当日)	40,200円
会場募金箱+こめぞーパッチ	9,710円
合計	233,910円

「サライ」

空知中央病院
空知中央バンド
北川 進ほか



「栄光の架け橋」

新十津川
ホワイトベアーズ



「街の灯り」

社会福祉法人
明和会
理事長 西川雅浩



「あんた」

弥生区代表
沼田正人



「大空と大地の中で」

新十津川農業高等学校
教頭 藤沼 悟



「有難や節」

花月区代表
尾中忠志



「男の勲章」

陸上自衛隊滝川駐屯地
第10普通科連隊
第2普通科中隊
私立陸自高校10年2組
森 拓海と仲間たち



「石北峠」

新十津川町老人クラブ連合会
副会長 平澤豊勝



「アトラクション」

一輪車サークル



「龍馬残影」

青葉区代表
高崎美智代



「星影のワルツ」

みどり区代表
(みどり区カラオケ同好会)
小滝剛之



「危険なふたり」

新十津川町商工会
会長 伊藤克嘉



「北緯五十度」

文京区代表
中村良男



「サボテンの花」

北海道社会福祉協議会
空知地区事務所
所長 吉田康弘



「赤鼻のトナカイ」

新十津川町青年協議会
萩原 晶
加藤敏晃



「UFO」

新十津川町
副町長 小林 透



「花の兄弟」

ピンネカラオケ部会
会長 吉田正次
副会長 齊藤信吾



「学生時代」

新十津川町
民生委員児童委員協議会
佐藤悦子



「細雪」

中央区代表
白石勝也



「グランドフィナーレ」

「ふるさと」
全体斉唱



「好きになった人」

橋本区代表
佐藤淑子



「田園」

新十津川町議会
議員会 鈴木康裕



ご出演ありがとうございました



平成30年度福祉作文コンクール 【金賞】受賞作品紹介

小学生の部 【金賞】

「しあわせの暮らしのために」

大浅 巴菜さん（6年）

「ふ」ふだんの「く」くらしを「し」しあわせに、この三つの文章の頭文字をつなげると



「ふくし」になりますね。

これは、私が福祉について調べたときにできた言葉です。福祉とは「みんなが幸せになれるよう」に取り組む活動や仕組みをいいます。私はこの意味を知って思い出した言葉がありました。それはボランティアです。

私は「ボランティア」を中心に調べていきました。ボランティアとは「ふ」だんの「く」らしを「し」あわせにするために、アイディアを出し合ったり、手や足を使って汗をかいたりして、「生活を良くしよう、困ったことを解決しよう」とする活動です。そこで私は自分でボランティアの楽しさを考えてみることに

しました。私が思った「ボランティア」の楽しさは、誰かのためだけでなく自分のためにもなる活動だと言うことです。誰かに言われて仕方なくではなく、自分から進んで行うということが大事であり、お金やほめられることが評価されることを期待する活動ではありませんが、地域や社会のために活動することにより、人との出会いが生まれ、知識や技術を身につけることができ、さらに色々なことに挑戦できるので私は楽しいと思います。

また、福祉について調べ進めていくと、「バリアフリー」「ユニバーサルデザイン」という言葉に出会いました。バリアフリーとは「お年よりや、体の不自由な人のために、今あるバリアをなくす」という考えかたです。たとえば、段差がある出入り口にスロープをつけて、車いすの人が出入りできるようにすることなどです。また、今あるバリアをなくすることも大切ですが、「街や物をつくるときに、はじめからできるだけ色々な人が使いやすいように工夫する」という考えかたをユニバーサルデザインといいます。たとえば、建物を新しく建てる時、はじめから段差をなくして出入り口をつくれれば、お年よりや車いすの人だけでなく、

おなかに赤ちゃんがいる人や、ベビーカーをおしている人など、もつとたくさんの方が、出入りしやすくなります。みんながしあわせに暮らすためには、物や街を誰にでも使いやすく工夫するだけではなく、困っている人をお手伝いするなどの一人ひとりの心づかいが大切です。私も普段の生活で周りに気を配り、困っている人がいればお手伝いをしたり、どうすればみんながしあわせに暮らせるかを考えていきたいと思っています。

中学生の部 【金賞】

【笑顔】

岡 実紗希さん（3年）



私の将来の夢は理学療法士になることです。その夢を実現するには、それなりの知識と体験が必要で、す。そこで、私は八月四日に「ひだまりの郷」で二度目の福祉体験をしてきました。二度目ということもあり、少し楽な気持ちで参加することができました。

最初に、リビングでテレビを見ている方々とお話をする機会がありま

した。そこで、私は知らない目上の方々とお話することの難しさを改めて感じました。なぜかというところ、相手が話しかけてくれるまで何も声をかけることが出来なかったり、話かけられても、そんなに会話が続かなかったからです。

最初の仕事は、「さくら」というグループの生活スペースの掃除をすることです。家でもあまり掃除機をかけたことがない私は一瞬とまどいました。寝ている人も数名いたので少し気が引けましたが、それが日常生活だとおっしゃっていたので、安心してかけることが出来ました。この仕事では、色々なことに気をつかいながら仕事をこなすことの大変さを強く感じました。

次の仕事は、入居者の方と一緒に麦茶を届けに行ったり、買い物に行くことです。私が乗った車は座席がボタン一つで動く車でした。この機能について、ひだまりの郷の職員の方は、「足が悪い方も乗りやすいので、私達職員も便利で楽だ」とおっしゃっていました。バリアフリーだけでなく、乗り物に色々な機能がつくことによって、からだの不自由な方々も生活しやすくなって、笑顔が増えることにつながると思います。

この日最後の仕事は、私が最も苦

手な分野でした。それは、自分から話しかけて飲み物を聞くことです。職員の方と一緒に聞いてまわっているものの、前半は職員の方が聞き、私が飲み物を入れるという具合でしたが、後半は頑張って自分から聞いて、自分で入れるという本来の自分の役目を果たすことが出来ました。この日のミーティングのとき、職員の方に

「みさきちゃんすごく雰囲気が良いから、高校生になったらひだまりの郷でアルバイトしてみない？」と言われて、「今日一日真面目にやっけてきて良かったな」と心の底から思いました。

人間が笑顔になるためには、「誰かから必要とされること」、「負担が少ない生活」が大切だと私は思います。確かに、この二つを実現するのはとても難しいことだと思います。もっとというと、ご老人の方々は若者達に比べて、笑うことが少ないと思います。だからこそ、理学療法士として福祉施設で働き、入居者の方と一緒にレクレーションなどをするこ



古館孝広さんのオカリナの演奏を聴く参加者

1月の各種イベントのご案内

●すまいるあっぷ (健康教室)

各自治会館

- 橋本区 14日を除く毎週月曜日
- みどり区 2日を除く毎週水曜日
- 菊水区 1日を除く毎週火曜日
- 文京区 4日を除く毎週金曜日
※11日はハーブガーデンとなります。
- 花月区 2日を除く毎週木曜日
- 青葉区 15日(火)
- 中央地区 3日を除く毎週木曜日

●オレンジカフェ (認知症カフェ)

18日(金) 10:00~ ゆめりあ

～若さを保つ!認知症を予防する!
元気になる!地域のつながりを増やす!～

社協雑記

みなさん明けましておめでとうございます。
 去年は、胆振東部地震や札幌の爆発事故など、道内においても数々の衝撃の出来事がありました。
 今年は、天皇の生前退位により4月30日をもって平成が終わり、消費税も10%に引き上げられますが、調べてみると、消費税が導入されたのは昭和が終わった平成元年だそうです。平成元年に起こった良い出来事も同じ様に今年起こってほしいのですが、調べてみても平成元年の良い出来事は殆ど出てきませんでした。
 ただ、良い出来事が無かったとしても、災害、事件など暗い出来事の無い平和な1年になってほしいと思います。

N. A

あざれあ工房 お礼の会を開催

地域活動支援センター「あざれあ工房」の利用者による「あざれあ工房お礼の会」が、11月1日、ゆめりあ多目的ホールで開催されました。

日頃からお世話になってるボランティアのみなさん、福祉関係団体のみなさんをお招きして、利用者によるダンスの披露や、参加者全員でのゲームなど楽しいひと時を過ごしました。

みなさんいつもありがとうございます。お礼にダンスを披露します!!



ふれあい横丁は、改修工事のため、平成31年3月までの間、使用できません。この間、すまいるあっぷは中央区自治会館、オレンジカフェはゆめりあにおいてそれぞれ開催します。

ご厚情感謝申し上げます

●社会福祉協議会へ

- ◆矢木沢愛さん(札幌市) 3万円
- ◆離町に際して
- ◆石本吉晴さん(橋本) 5万円
- ◆故玲子様生前のお礼
- ◆匿名(中央) 3万円
- ◆社会福祉資金として
- ◆岩井美道さん(花月) 7万円
- ◆故美喜子様生前のお礼

社協ホームページは右のQRコードからいつでも閲覧することができます。

